

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社 ウェル・ビーイング		
事業所名	グループホーム とらいあんぐる 太陽		
所在地	〒003-0825 札幌市白石区菊水元町5条2丁目2-18 (電 話) 872-7335		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年4月25日

【情報提供票より】 (20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 18 年 2 月 21 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.75人

(2) 建物概要

建物構造	SRC 造り
	9 階建ての ～1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (家賃2ヶ月分)	無 暖房費	11月～3月 月11000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1200 円		

(4) 利用者の概要 (2 月 29 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名
要介護 3	3 名	要介護 4	
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 80 歳	最低 64 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道脳神経外科記念病院・やしま内科消化器科クリニック・札幌デンタルクリニック・札幌センチュリー病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

とらいあんぐる太陽は、開設して2年目が過ぎたところである。9階建の大きなマンションの1階部分が事業所になっている。南側に面した居室や居間、台所などは陽光が射し暖かである。明るく清潔で、開放的な居間を中心とした共用空間と、居室が使いやすい配置になっている。利用者本位の意思を大切に、ゆったりと、自由で誇りのある暮らしを続けることを、管理者と職員が積極的に熱意を持って支援している。管理者と職員間の信頼も厚く、職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に、取り組んでいる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点は、「緊急時に手当が出来るように消防署の協力を得たり、内・外部研修を重ねることが望まれる。」との事である。内・外部研修を実施するまでには至っていないが、訪問看護ステーションの職員から指導を受けたいとの希望もあり今後に期待する。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の評価を念頭に全職員が自己評価に取り組み、その内容を職員間で検証し管理者がまとめている。評価の意義を管理者、職員は理解し、日々のサービスを振り返りながら、ケアの見直しなどに繋げて行くよう取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月ごとに開催している。事業所からは現状報告や行事内容の説明がなされ、町内会からは住民がボランティアとして参加出来る事について、お互いのより良い協力関係を目指した意見討議が行なわれている。運営推進会議メンバーの意見や助言は全職員に報告し、事業所の運営に反映すると共に、サービスの向上に繋げている。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に、苦情、要望などを気軽に話してもらえる雰囲気づくりに配慮している。また、玄関には意見箱が設置されている。出された意見、要望はミーティングで話し合いケアサービスに反映させている。重要事項説明書にも、苦情相談窓口を明示している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所の方とは、玄関前、駐車場、ゴミステーションなどで会うと、声をかけたり挨拶をしている。町内会行事(花壇苗植え、運動会)等に参加している。また、地域の方が、利用者の話し相手のボランティアに来てくれている。散歩時に近くの保育園児が声かけをしてくれるなど、地域の方と双方向的な関係を持つように、積極的に取り組んでいる。
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げ、住み慣れた地域で安心した暮らしが出来るように、日常的に、地域との交流を持つ場面作りに、積極的に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールに目に付くように掲示している。理念が反映されるように、事あるごとに職員間で話し合い、日々の現場で伝え確認し、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に声をかけたり挨拶をしている。町内会行事(花壇苗植え・運動会)等に参加している。また、地域の方が話し相手のボランティアに来てくれるなど、積極的に地域との交流を持つようにしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。評価で見出された課題は、職員会議で話し合い、改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からは現状報告や行事等の報告を行っている。町内会からはボランティアについて提案が出されるなど活発な意見交換が行なわれている。参加者からの意見・要望をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で開催の研修会に参加したり、機会あるごとに相談、助言をもらい連携を取りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には声をかけ、利用者の暮らしぶりや、健康状態について報告している。また、毎月ホーム通信を発行し、個別にコメントを入れるなど、事業所の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には、気軽に何でも話してもらえるような雰囲気作りに配慮している。玄関ホールに意見箱を設置している。出された意見、要望についてはミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動のときは、利用者に説明を行い、引き継ぎ期間を十分に取り、利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会有るごとに外部研修に参加し、それらの研修報告をミーティングで発表され、職員の資質向上に努めているが、職員の経験に応じた研修計画を立て、行うまでには至っていない。	○	外部研修には職員が任意で参加しているので、業務の一環として参加できるような、事業所の計画的な取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区のグループホーム連絡会に出席し、同業者との情報交換や交流を図り、ネットワーク作りとともにサービスの質の向上を目指している。	○	管理者は、グループホーム連絡会を通して同業者との交流があるが、職員間の交流をするまでには至っていない。相互訪問の活動を通して、サービスの質の向上に期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、事前に家族や身内の方と共に、本人に事業所を見学してもらい、居室などを確認、納得のうえでサービスを利用出来る支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者と共に活動することで、食事の味付けや、昔の日本の文化や習慣など、利用者から教えてもらう場面が多くある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声をかけたり、言葉や表情などから本人の思いを受け止めて、その人らしく暮らし続ける支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の生活や見守りの中で、家族、職員からの情報を収集し、介護計画に反映させている。職員間のチームワークがよく活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスを行い、3ヶ月に1度介護計画を立てている。利用者の身心の状態の変化や、本人、家族の要望、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院、外出の送迎など必要に応じて支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する主治医がおり、定期的に受診している。通院時に家族が付き添えない場合は、職員が付き添うなどの支援をしている。結果を個別の受診記録に詳細に記入している。また、家族に受診状況を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、家族、医師、職員間の話し合いの中で方針を共有し、事業所が対応し得る最大限の支援を考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちや立場を考え、周りに悟られないように、言葉かけや敬意のある対応に配慮している。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身の状態や思いなどを配慮しながら、活動も押し付けにならないよう出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を活かし、食材の準備、調理、後片づけをスタッフと一緒にこなうなど、利用者の意志や気持ちを大切に支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴は、午前、午後できる限り本人が希望する時間やタイミングに合わせて入浴している。また、利用者の心身の状況に応じ見守り、介助の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事参加を中心に能力を活かした役割を持ち、また、花札などの楽しみを通して気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間以外は、天候や利用者の心身の状況、希望を尊重しながら散歩、買物などの外出支援を行っている。	○	北海道は冬季期間が長いので、雪祭り見学などのイベントを機会に、（ドライブでも）出来るだけ外に出て、気分転換を図れる支援を期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないことの大切さを理解し実践している。玄関にセンサーを設置し外出に対応している。また、夜間帯は防犯上の理由から施錠している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防火管理者指導の下に避難誘導を中心に実践的な訓練を行っている。災害時における地域との協力体制を築く取り組みには至っていない。	○	今後は運営推進会議等を通じ、地域住民へ呼びかけ、協力体制を築くための話し合いを行い、連携が図れる取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の量、栄養バランス、水分摂取量を把握し、利用者に合わせた食事の提供を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はバリアフリーになっており、広く明るい居間から、居室へは動きやすい配置となっている。また、置物や装飾品なども季節感、生活感を採り入れて居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い馴れた馴染みの家具やソファなどが持ち込まれており、利用者が安心して過ごせる居室になっている。		

※  は、重点項目。